

## 北海道（空知・上川）における水稲・小麦の生育実態調査概要

1. 日時：平成21年7月31日（金）
2. 調査場所：空知支庁 由仁町（JAそらち南）  
上川支庁 旭川市（JAたいせつ）  
東川町（JA東川町）
3. 出張者：生産局農業生産支援課 小林首席生産専門官  
他 2 名

### 4. 調査結果

#### （1）気象状況

7月上旬から、低温・多雨・日照不足の傾向。特に多雨・日照不足が顕著で、7月の降水量は平年の約3倍となっている。なお、7月25日頃から天候は幾分回復傾向（7月31日の天候（旭川）；最低気温17℃、最高気温27℃、曇りのち晴れ）。

#### （2）水稲

##### ① 生育状況

7月1日時点では、平年比2日程度遅れていたものの、草丈、莖数とも平年並みであった。しかし、その後の気象状況の影響により、現在、以下のような状況。

- 生育ステージは、穂ばらみ期（空知）～出穂期（上川）であり、4日～6日の遅れ。
- 減数分裂期に低温傾向で推移したことから、不稔の発生が懸念される。ところ。（冷害危険期の平均気温が平年比3℃程度低く推移。最も低い時で平年比▲5℃）
- 平成5年ほど低温ではなかったが、顕著な多雨・日照不足が今後の生育に及ぼす影響が不安材料。

- 道が登熟期に不稔発生率の調査を行う予定だが、結果の判明は8月下旬以降となる見通し。

## ② 技術対策等の実施状況

- 7月上旬より農業改良普及センターが生産者に深水管理の徹底を指導。また、生育初期から畦畔補強に努める等の対策を講じていたことから、実施状況は例年よりも良好。ただし、一部では深水管理を実施していないほ場あり。
- いもち病については、葉いもちが少ないものの、発生好適日が続いているため、発生田での徹底防除を指導。

## (3) 小麦（空知のみ）

### ① 収穫状況

- 収穫の進捗率は約6割。平年比2日程度の遅れ。
- 現在、秋播き小麦（ホクシン）を収穫中。きたほなみは、ホクシンよりも約1週間遅れて収穫期を迎える見込み。
- 収穫前の一部ほ場に赤かび病、倒伏及び穂発芽が見られる。

### ② 品質、被害の状況

- 収量は平年と大差ないが、現在搬入されている麦の約2割が穂発芽被害粒。被害のより深刻な麦は、仕分けられ、乾燥調製・貯蔵されているところ。
- 今後収穫される麦の穂発芽被害粒割合は、降雨が続けばより高くなる懸念。
- 赤かび病によるカビ毒（デオキシニバレノール）については、基準値（1.1ppm）未満。
- 品位は平年より低くなると見込まれることから、JAにおいて出荷前に比重選別機により再選別を行う予定。

## 北海道（網走地域）における農作物生育実態調査概要

### 1 日程

平成21年7月31日（金）

### 2 調査場所

北見市（JAきたみらい）

大空町（JAめまんべつ）

小清水町（JAこしみず）

### 3 出張者

農林水産省生産局生産流通振興課 堺田 地域対策官  
他 2 名

### 4 調査結果

#### （1）気象状況

6月から日照不足。6/26に北見市及び大空町で降雹。

7月は低温（15℃未満の日が5日間）、多雨（平年比270%）、日照不足（平年比55%）。(アメダス北見)

#### （2）麦類

##### ① 収穫状況

○ 平年比3，4日遅れ（北見）から1週間程度遅れ（大空）。小清水は平年並み。穂は成熟しても地面が湿って軟らかく、コンバインが入らないほ場がある。

○ 場所を選びながら刈り取るため、1日に80ha程度しか収穫できない（例年は1日300ha程度収穫）（北見）。

##### ② 品質・被害の状況

○ 7月の寡照で茎が軟弱化し、降雨により2割程度で倒伏が見られる（北見、大空）。

○ 1割程度で倒伏が見られる。例年よりも生育が進んでいたほ場や追肥を行ったほ場において、倒伏しやすい傾向。（小清水）

- 穂発芽は現時点ではない（大空、小清水）又は僅かに見られる程度（北見）。今後、雨が続けば、穂発芽等の懸念。
- 赤かび病は現時点ではない（北見、小清水）又は僅かに見られる程度（大空）。
- 全体として7月の長雨により細麦傾向で、歩留まりの低下を懸念。

### （3）たまねぎ

#### ① 降雹（6/26）による被害の状況

- 北見では、作付面積4,376haのうち、端野地区413ha、北見地区164haで被害。大空では、作付面積160haのうち26.5haで被害。
- たまねぎの葉がちぎれる等の被害。生育が2～3週間遅れて玉の肥大が悪く、ばらつきがあるほか、傷ついた葉から雨水や病原菌が侵入し、軟腐病等が発生。収量（小玉化）及び品質（腐敗による保存性の低下）への影響が懸念。

#### ② 生育状況

- 湿害により収量低下の懸念。生育にばらつきがあり、全般に小玉傾向。オニ皮が黒くなるなどの品質低下も懸念。
- 降雨により、収穫作業が4，5日遅れ（北見）。

### （4）ばれいしょ

- 生育ステージは、平年並み（大空、小清水）から5日程度遅れ（北見）。
- 降雨により地盤がゆるく、防除・収穫作業に遅れ。今後、疫病と塊茎腐敗の発生が懸念（ほ場に散見される状況）。

### （5）小豆（大空）

- 日照不足や湿害により、生育が6日遅れ。お盆までに花が咲けば、その後の生育が期待できるが、8月の天候次第。
- 褐斑細菌病が発生しても、地盤がゆるく、防除ができないほ場も見られる。

(6) てん菜

- 生育は平年並み（小清水）から数日遅れ（大空）。
- 一部のほ場で湿害が見られるほか、褐斑病が発生しているが、地盤が緩く防除作業に入れない状況。大空では、管内1,800haの作付けのうち、20ha程度で深刻な湿害が見られる。
- 今後、長雨が続けば、糖分が低くなる可能性（小清水）。

## 北海道（十勝地区）における農作物生育実態調査概要

### 1 日程

平成21年8月3日（月）

### 2 調査場所

帯広市（JA帯広大正、JA帯広市川西）

芽室町（JA芽室）

中札内村（JA中札内村）

更別村（JA更別村）

### 3 出張者

大臣官房

榊 参事官

他 3 名

### 4 調査結果

#### （1）気象概況

6月上中旬には低温・日照不足により、生育の遅れ。6月下旬から7月上旬にかけて好転したが、その後7月中旬以降は曇天・降雨の繰り返し、かつ低温で推移しており、日照時間が非常に少ない。

#### （2）主要農作物の生育状況

##### ア 小麦

現在収穫期。帯広周辺は2～3割程度進んでいる状況。南部（中札内、更別）は収穫が始まったところ。

穂数、穂長ともやや少なく、上位2～3節は不稔。その分、下位節にデンプンが蓄積し、下位の粒は充実し太め。（中札内では、新品種きたほなみは上位節まで充実しているとの報告あり。）

雨にさらされているため、品質低下が懸念。一部ほ場で倒伏（風道等ほ場条件によって程度に大きな違い）。穂発芽は散見程度。防除の徹底により、赤かび病はまばら。

ほ場がぬかるんでいるため、一部でコンバインが入れない状況。途中まで収穫をして、ぬかるみに立ち往生し、刈り残しがあるほ場も散見。

天候が良ければ7日程度で収穫は終了する見込み。ただし、今後の天候によって収穫が進まなければ、穂発芽被害等により、さらに減収・品質低下の懸念。

(中札内で栽培されている新品種きたほなみについては、上位節まで充実し、平年並みの収量が期待されるとの報告あり。)

#### イ 豆類

1週間前あたりから開花期。生育は2～4日遅れ。

草丈が低く、分枝数も少ないため、着花数も少ない状況。

雨が多く、土壌水分が高いため、根粒菌の着生が少なく、全体的に窒素不足により退色気味。

湿害に弱い菜豆(手忙、金時)、小豆では、生育が停滞気味であり、特に排水が悪い箇所を中心に、湿害により下部葉が黄変している状況。

#### ウ てん菜

日照不足、土壌過湿により根部の肥大に遅れ。単収、根中糖分は今後の天候次第。

低温のため、今のところ褐斑病等の発生はほとんどないが、今後適期の防除が重要。

#### エ ばれいしょ

排水不良のほ場等においては、生育不良が見られる。また、疫病の発生も一部に見られる状況。

全体的に茎が細い感じであるが、多くのほ場では全体的な開花が見られ、現時点では平年並みの生育が確保されている状況。

種子ばれいしょも同様の生育。

### 5 営農指導の状況

① 北海道庁では、天候不順に伴う営農技術特別指導チームを設置し、適期防除、適期追肥、排水対策、適期収穫等の指導の徹底を図っているところ。

② 収穫期にある小麦については、衛星データなども活用しながら、水分の低下の状況及び土壌の乾燥の状況により、収穫するほ場の

順番決めを行い、生産組織（農家集団）、JA及び普及組織が連携して速やかな乾燥調製を行っているところ。

- ③ 豆類やばれいしょ、てんさいなど、生育途中の作物については、今後の天候によって生育の回復も期待されることから、作柄確保に向けた農家の取り組みを継続していくことが重要であり、適時に必要な情報提供を行うなどの技術支援を引き続き行っていく必要。